

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるが面白い
いろんな人がいるが楽しい

No. 668

2023年12月

別

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- あの山の向こうに (169) 2
- 「鉄道と愛国」ほか 4
- お便りから 8
- トレイルメンテナンス シンポジウム 12
- 月居山と袋田の滝 16
- 三浦ハイク「長者ヶ崎～立石」 18
- 山仕事(11月、大平) 19
- クマと生きる道は? 22
- 会費の払込み方法が変わります 23
- け・い・じ・ばん 24



泉ゆきを「じはいつも山頭火」
(日本習字普及協会)

12月7日現在の
会員数 205名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を
郵便局で 10540-52760981
(鈴木厚正の口座)
へ 併い込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、冬のグリーンング

山仕事(11月、大平)

11月29日(火) 快晴。昨日はちたかだったが、今日から冷えるとのこと。

朝起きると冷蔵庫が変だ。冷凍庫の中の物がみんな溶けている。もう20年経っている。買い換之ねばならないが、残された年のことが頭をよぎる。それに、今日から山仕事で出かける。はて、どうしたものか。不幸か幸か、今日から冷之以むという。おまけにぼくらは全館冷蔵庫だ。ならば、三日後に帰ってくるまでダメになることはないだろう。

小田原で伊藤康江さんと合流。富士がきれいに見える。康江さんからラインによる正士さんからの連絡を見せもらう。

天浜線掛川駅で、三宅伊織子、原田、山崎さんと合流。車内で食べる今日の弁当は「まいせし」のトンカツ弁当。家では一切揚げ物をしないので、ときに食べたくなるのだ。それに、全体にハレーな山仕事中の食事のことも、5とびりある。

教地駅で正士、久米さんに迎えられる。一緒に栗沢さんのミカン園へ。宮川早生? 大量にいただく。いつもありがとうございます。ミカンがあれば、作業中、清涼飲料水がいらぬ。

ここで買物組(康江、久米、原田、山崎さん)と別れ、柿農家の平野さん宅へ。正士さんがカキを4箱購入。ほくは2箱目を山仕事から戻る日の翌日に着くよう依頼。

正士さんちへ行く途中、久いりにバラさん(神原幸雄さん)のお宅による。三宅さんが三人の写真をとってくれた。すぐ近くに居ながら会うのは4月のお茶摘み以来だ。

買物から帰った原田、山崎さんに15時から参加の竹中さんと、浅田さんの田んぼ跡①の草刈り。もともと日没の早いこの時期、なんと16:30に終了。

康江、久米さんが調べてくれた夕食は、

イワシの磯辺揚げ、ホタテ貝柱と大根のサラダ、刺身(カンパチ、キハダマグロ)、昆布・大根・竹輪(軟)の煮物、シラスと大根おろし、白菜煮物、金山青みそ、エシャレットに正士さんの手打そばと久米さんのだしをか之しで。

お母さんと一緒にいただき、食後、若林さんにマッサージしてもらう。母屋に寝袋で一人寝。

11月30日(水) 晴。心配したほど寒くない。ありがたい。

この日、水窪へから舟着午の、熊谷道子、竹中礼子さんが見える。中谷今朝菊さんは軽んで肩と腕を痛めたとのこと。骨は異常なくてよかった。

午前の作業は三組に分かれた。舟屋さんと熊谷さんは、東垂れつつじ園②のツルとり。久米、竹中、若林



さんは、³丑さんち裏③の草刈り。原田、山崎さんとぼくが佐野光信さんの畑跡④の草刈り。ここは初めてだ。佐野さんはすぐそばの養豚家だ。それが初期の認知症と身体衰弱に、奥さん歩行に杖が必要という状態で、正士さんが草刈りに頼りました。道路から見るとときより末広がりだ。昼までかかってしまった。

水窪(みさくぼ)から持参された品々を主体に、竹中礼子さんと康江さんが調理してくれた昼食は、

竹中さん提供のインシ肉のすき焼き、根菜の煮物、道子さん手作りの生芋こんにゃくとシタケの煮物、千鶴さんが育てた高黍(たかきび=こりゃん)の汁粉、大根なます、茹でピーナツ、中谷さんから托されたリンゴ、エシャレットと、いつものがらの大ごぼう。

ゆけでも、野生とは思えないシ肉のおいしさ。

午後、正士さんは三宅さんとホームページづくりの続きとそば打ち。水窪のふに人はツルりの続き、竹中さん(男)はハンマー・モア(ナイフ)(自走式の草刈り機)をとりに戻り桶ヶ沢⑤へ。残りのメンバーも桶ヶ沢に集結。

15時全員で休憩。その後、水窪の子名は帰宅。ありがとうございます。

桶ヶ沢の終り近く、又米さんが指さすオエみると、「敷地アルプス」の夕映えが美しい。アルプスといってもぼくが勝手に呼んでいるもので、標高150m前後のつらなだ。

三宅さんはホームページづくりが終ると帰宅。雑報には写真がのらないが、「鈴木正士」のHPにはカラー写真がのっています。今日一番風呂に入らせてもらう。

夕食は、お母さんと青山さんも一緒に。青山さん、今秋のシタケは収穫ゼロだったそう。夕食のメニューは、

青山さん手づくりのカキフライ(海のカキでなく、次郎柿とうすく切って揚げたもの。子どもの頃のおやつだった)、ツルりのつくねとエビ等の煮物、人参サラダ、シラスと大根おろし、白菜と厚揚げの煮物、カリフラワーのマヨネーズ和え、紀文のキティちゃんおまほご添え。

食後、啓史さんが来るまで、原田さんのケーナで合唱。このあたりも一人暮らしの高齢者が多い。時折、こうした集いがあれば、気分的にも健康面でもずいぶん違うだろう。

20時、啓史さんが加わり、話し合い。啓史さんは隣の森林組合の森林整備課長で森林施業プランターの資格も持つ。(間違いないと、言っておく)

その啓史さんに又米さんが話しける。前の週21日の夜、大子温泉の宿で話合った森林環境譲与税の問題だ。森町では、譲与税がらみで森林組合がどのような役割を果たせるか。また、磐田市では1千万円余り配布されたお金を1円も使わず貯めこんでいるが、それを生かす道はないか。地域のニーズと市民ボランティアとの結びつきによる森林整備の道は。合併前の磐田市は森林が存在しなかったのでは何をしたらいいかわからない状態だが、旧敷地村の森林と共有する財産区が目玉をまわして動きだすようにするにはどうしたらいいか、等々、周りの音も加わって意見を求め合った。意義のある一夜だったと思う。

森町の一住民、それも「新参者」の久米さんがこれだけの熱意を持っている。それをしかりと受け止め、意義ある使い方ができるとよいと思う。

話が一段落したところでおそばをいただく。
この夜も一人寝。少しずつ寒さが増している。



12月1日(金)、晴。この日は楽な作業と思っただが、佐野さんから希望のあった場所、④、⑦、⑩の草刈り

にかかる。④には、原田、山崎、若林さん。40年ほど前、近くで白骨死体が見つかったという⑦の柿園には、久米、竹中さんとぼく。残る⑩は全員で坂上貞一さんの柿園と併せ、敷地内の洪水で荒れた柿園の草刈り。皆の力はすばらしく、11時前に終了。

昼食にシシ肉丼をいただき、正士、久米、若林さんに見送られ帰宅。

今回も、多くの方々からいただき物がありました。ありがとうございます。

- 浅岡さんから焼酎、金麦とつまみ
- 伊藤康江さんから山形・大豆トラストの納豆
- 深澤明男・富士代さんから沢山のミカン
- 若林さんから「かのこ豆」(小豆の甘煮)
- 内田美智子さんから白饅頭
- 佐野さんから日本酒、つまみ、金一封
- 伊藤和代さんから食パン、菓子パン
- 山本真由美さんから法多山(はたき)の団子